

「元気塾」 Xmas party プログラム

頁	曲名	頁	曲名
1	表紙 My Way	9	恋の季節 夜明けのブルース
2	だんな様 浮草情話	10	酒よ 二人でお酒を
3	ごめんね とんぼ	11	青春時代 高校三年生
4	思い出の渚 秋桜	12	上を向いて歩こう 今日の日はさようなら
5	糸 涙そうそう	13	戦争を知らない子供たち 無縁坂
6	真っ赤な太陽 瀬戸の花嫁	14	Amazing Grace ジングルベル
7	四季の歌 ここに幸あり	15	Take Me Home Country roads
8	花 なごり雪	16	諸人こぞりて 聖夜

My Way

1. やがて私もこの世を去るだろう 長い年月私は幸せにこの旅路を
今日まで超えてきた いつも私のやり方で
2. 心残りも少しはあるけど 人がしなければならぬ事ならば
できる限りの力を出してきた いつも私のやり方で
貴方も見てきた私がした事を 嵐も恐れず
ひたすら歩いた いつでも私のやり方で
3. 人を愛して悩んだこともある 若いころにははげしい恋もした
だけど私は一度もしていない ただ卑怯な真似だけは
人はみないつかはこの世を去るだろう
誰でも自由な心で 暮らそう私は私の道に行く

だんな様

1. つらい時ほど 心のなかで 苦勞みせずに かくしていたい
私の大事な だんな様 あなたはいつでも 陽の当たる
表通りを 歩いて欲しい
2. がまんしている 背中をみれば 男らしさに 涙が出ます
私の大事な だんな様 あなたの心が 痛む時
同じ痛みが 私も欲しい
3. 明日を信じてお前と二人 お酒飲もうと 差し出すグラス
私の大事な だんな様 あなたに寄り添い いつまでも
心やさしい 女房でいたい

浮草情話

1. この目に見えない 運命 (さだめ) の嵐
今日も二人を もてあそぶ
もしもあなたが 死ぬのなら
そうよ私も 生きてない
ねえ あなた 命一つに 重ねたい
2. 負けたらだめだと 心を叱る
別れられない この人よ
肩を並べて 酔う酒の
耳に聞こえる 汽車の笛
ねえ あなた涙浮かべる ふるさちよ
3. どこまで流れる 運命 (さだめ) の川を
ネオン灯りが 目にしみる
どこへ着こうと 浮草の
愛を明日へ連れてゆく
ねえ あなた この手を放して暮らせない

ごめんね

好きだったの それなのに あなたを 傷つけた “ごめんね” の言葉
涙で言えないけど 少しここに居て 悪ふざけで 他人 身を任せた夜に
一晚中待ち続けた 貴方の姿目に浮かぶ消えない過ちの 言い訳する前に
あなたにもっと 尽くせたはずね連れて行って別れのなくにへ

せめて今夜眠るまで 私を抱きしめていつもわがままを
許してくれた場所まで戻りたい消えない過ちに 泣き続けるのなら
このまま二度と目覚めたくないすぐすぐ貴方を苦しめた

滲む街のビルボード 淋しそうなスケッチ 世界中きっと一番大切な
恋を失くしたのね消えない過ちを 後悔する前にあなたをもっと愛したかった
どこにあるの悲しまない国

消えない過ちの 言い訳する前にあなたにもっと 尽くせたはずね
連れて行って別れのなくにへ

とんぼ

コツコツとアスファルトに 刻む足音を 踏みしめるたびに
俺は俺で 在り続けたいそう願った 裏腹な心たちが見えて
やりきれない夜を数え 逃れられない闇の中で 今日眠ったふりをする
死にたいくらいに憧れた 花の都 “大東京”
薄っぺらのポストンバック 北へ北へ向かった
ざらついたにがい砂を噛むと ねじ伏せられた正直さが
今頃になってやけに骨身にしみる
ああしあわせのとんぼよどこへ お前はどこへ飛んでゆく
ああしあわせのとんぼが ほら 舌を出して 笑ってら

明日からまた冬の風が 横っ面を吹き抜けて行く
それでもおめおめと生き抜く 俺を恥らう 裸足のまんまじゃ寒くて
凍りつくような夜を数え だけど俺はこの街を愛し そしてこの街を憎んだ
死にたいくらいに憧れた 東京のパカヤローが
知らん顔して黙ったまま 突っ立てる ケツの座りの悪い都会で
憤りの酒をたらせば 半端な俺の骨身にしみる
ああしあわせのとんぼよどこへ お前はどこへ飛んでゆく
ああしあわせのとんぼが ほら 舌を出して笑ってら

思い出の渚

1. 君を見つけた この渚に 一人たたずみ 思い出す
小麦色した 可愛いほほ 忘れはしない いつまでも
水面も走る い船 長い黒髪 風になびかせ
波に向かって 叫んでみても もう帰らない あの夏の日
2. 長いまつげの 大きな瞳が 僕を見つめて うるんでた
このまま二人で 空の果てまで 飛んで行きたい 夜だった
波に向かって叫んでみても もう帰らない あの夏の日
あの夏の日 あの夏の日

秋 桜

1. 薄紅のコスモスが 秋の日の 何気ない陽だまりに 揺れている
この頃 涙もろくなった母が 庭先で一つ せきをする
縁側で アルバムを開いては 私の幼い日の 思い出を
何度も 同じ話くりかえす ひとり事みたいに 小さな声で
こんな小春日和の 穏やかな日は あなたの優しさが 染みしてくる
明日嫁ぐ私に 苦勞はしても笑い話に 時が変えるよ
心配いらないと 笑った
2. あれこれと思い出を たどったら いつの日も一人では なかったと
今更ながら わがままな私に 唇かんでいます
明日への荷造りに手を借りて しばらくは楽しげにいたけれど
突然涙こぼし元気でと 何度も 何度も くりかえす母
ありがたいの言葉を かみしめながら生きてみます私なりに
こんな小春日和の 穏やかな日はもう少し あなたの
子供でいさせて 下さい

糸

なぜめぐり逢うのかを 私たちは何も知らない
いつめぐり逢うのかを 私たちはいつも知らない
どこにいたの 生きてきたの 遠い空の下 二つの物語
縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布はいつか誰かを
暖めうるかも知れない

なぜ生きてゆくのかを 迷った日の跡のささくれ
夢追いかけて走って 転んだ日の跡のささくれ
こんな糸がなんになるの 心もとなくて 震えてた風の中
縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布はいつか誰かの
傷をかばうかも知れない

縦の糸はあなた 横の糸は私 逢うべき糸に出遭える事を
人は仕合せと呼びます

涙そうそう

古いアルバムめくり ありがとうってつぶやいた
いつもいつも胸の中 励ましてくれる人よ
晴れ渡る日も 雨の日も 浮かぶあの笑顔
想い出遠くあせても おもかげ 探して
よみがえる日は 涙そうそう

一番星に祈る それが私のくせになり
夕暮れに見上げる空 心いっぱいあなた探す
悲しみにも 喜びにも 思うあの笑顔
あなたの場所から私が 見えたら きっといつか
会えると信じ 生きてゆく

晴れ渡る日も 雨の日も 浮かぶあの笑顔
想い出遠くあせても さみしくて 恋しくて
君への想い 涙そうそう 会いたくて 会いたくて
君への想い 涙そうそう

真っ赤な太陽

1. 真っ赤に燃えた 太陽だから 真夏の海は 恋の季節なの
渚を走る 二人の髪に 切なくなびく 甘い塩風よ
激しい愛に 焼けた素肌は 燃える心 恋のときめき
忘れず 残すため 真っ赤に燃えた 太陽だから
真夏の海は 恋の季節なの
2. いつかは沈む 太陽だから 涙に濡れた 恋の季節なの
渚に消えた 二人の恋に 砕ける波が 白く目にしみる
口づけ交わし とわを誓った 愛の孤独海に流して
激しく 身をまかす いつかは沈む 太陽だから
涙に濡れた 恋の季節なの 恋の季節なの 恋の季節なの

瀬戸の花嫁

1. 瀬戸は日暮れて 夕波小波 あなたの島へ お嫁に行くの
若いと誰もが 心配するけれど 愛があるから 大丈夫なの
だんだん畑と さよならするのよ 幼い弟 行くなと泣いた
男だったら 泣いたりせずに 父さん母さん 大事にしてね
2. 岬まわるの 小さな船が 生まれた島が 遠くになるわ
入り江の向こうで 見送る人たちに 別れ告げたら 涙が出たわ
島から島へと 渡って行くのよ あなたとこれから 生きてく私
瀬戸は夕焼け 明日も晴れる 二人の門出 祝っているわ

四季の歌

1、

春を愛する人は 心清き人
すみれの花のような 僕の友だち

2、

夏を愛する人は 心強き人
岩を砕く波のような 僕の父親

3、

秋を愛する人は 心深き人
愛を語るハイネのような 僕の恋人

4、

冬を愛する人は 心広き人
根雷を溶かす大地のような 僕の母親

5、

ランララララララララ~ ランララララララ~
ランララララララララ ランラララララ
ランラララララ

ここに幸あり

1. 嵐も吹けば 雨も降る 女の道よ なぜ険し

君をたよりに わたしは生きる ここに幸あり 青い空

2. 誰にもいえぬ 爪のあと 心に受けた 恋の鳥
ないのがれて さまよい行けば 夜の巷の 風哀し

3. いのちの限り 呼びかける こだまのはてに 待つは誰
君に寄り添い 明るく仰ぐ ここに幸あり 白い雲

花

川は流れてどこどこ行くの 人も流れてどこどこ行くの
そんな流れがつくころには 花として花として咲かせてあげたい
泣きなさい 笑いなさい いつの日かいつの日か 花を咲かそうよ
泣きなさい 笑いなさい いつの日かいつの日か 花を咲かそうよ

涙流れてどこどこ行くの 愛も流れてどこどこ行くの
そんな流れをこのうちに 花として花として迎えてあげたい
泣きなさい 笑いなさい いつの日かいつの日か 花を咲かそうよ
泣きなさい 笑いなさい いつの日かいつの日か 花を咲かそうよ
花は花として笑いもできる 人は人として涙も流す
それが自然のうたなのさ 心の中に心の中に 花を咲かそうよ
泣きなさい 笑いなさい いついつまでもいついつまでも 花をつかもうよ
泣きなさい 笑いなさい いついつまでもいついつまでも 花をつかもうよ

なごり雪

1. 汽車を待つ君の横で僕は 時計を気にしてる
季節はずれの雪が降ってる 「東京で見る雪はこれが最後ね」と
さみしそうに君がつぶやく 名残り雪も降る時を知り ふざけ過ぎた
季節のあとで 今 春が来て君は綺麗になった
去年よりずっと 綺麗になった

2. 動きはじめた汽車の窓に 顔をつけて
君は何か 言おうとしている 君の唇が「さようなら」と 動く事が
怖くて下を向いてた 時が行けば幼ない君も 大人になると
気付かないまま 今 春が来て君は綺麗になった
去年よりずっと 綺麗になった

君が去ったホームに残り 落ちては溶ける 雪を見ていた
今 春が来て君は綺麗になった 去年よりずっと 綺麗になった
去年よりずっと 綺麗になった 去年よりずっと 綺麗になった

恋の季節

忘れられないの あの人が好きよ 青いシャツ着てさ 海を見てたわ
私は裸足で 小さな貝の船 浮かべて泣いたの 訳もないのに

恋は 私の恋は 空を染めて 燃えたよ
死ぬまで私を 一人にしないと あの人が言った 恋の季節よ

恋は 私の恋は 空を染めて 燃えたよ
夜明けのコーヒー 二人で飲もうと あの人が言った 恋の季節よ
恋は 私の恋は 空を染めて 燃えたよ
夜明けのコーヒー 二人で飲もうと あの人が言った 恋の季節よ
恋の季節よ 恋の季節よ

夜明けのブルース

このグラス飲みほせば帰ると 言えばお前がからみつくから
すねてる肩をそっと引き寄せれば 膝にもたれて耳元ささやく
秘密に出来るの 誰にも言わずに
トキメキ心は運命（さだめ）と信じて
ここは松山二番町の店 渋い男の夜明けのブルース

かっこつけて一人タクシー乗っても 後ろ髪引く別れ口づけ
引き返したら思いっきり抱きしめ 夜のしじまに溶けてみようか
秘密に出来るの きっと最後の恋だと
トキメキ心は 見つめ合う目と目
ここは松山二番町の店 シャレた女の夜明けのブルース

秘密に出来るの 誰にも言わずに
トキメキ心は運命（さだめ）と信じて
ここは松山二番町の店 渋い男の夜明けのブルース

酒よ

- 1、涙には いくつもの思い出がある心にもいくつかの
傷もある一人酒 手酌 酒演歌を聞きながら
ホロリ酒そんなよも たまにやなあいいさ
- 2、あの頃を 振りかえりや 夢積む船で荒波に向かった
二人して 男酒 手酌酒 演歌を聞きながら
なあ酒よお前には 分かるかなあ酒よ
- 3、飲みたいよ浴びるほど 眠りつくまで男には明日がある
分かるだろー 詫びながら 手酌酒 演歌を聞きながら
愛してるこれからも 分かるよなあ酒よ

詫びながら 手酌酒 演歌を聞きながら愛してるこれからも
分かるよなあ酒よ 分かるよなあ酒よ

二人でお酒を

恨みっこなして 別れましょうね さらりと水に 全て流して
心配しないで 一人っきりは 子供の頃から 慣れているのよ
それでもたまに 淋しくなったら 二人でお酒を
飲みましょうね 飲みましょうね

いたわり合って 別れましょうね こうなったのも お互いのせい
貴方と私は 似たもの同志 欠点ばかりが 目立つ二人よ
どちらか急に 淋しくなったら 二人でお酒を
飲みましょうね 飲みましょうね

どうにかなるでしょ ここの街の どこかで私は 生きてゆくのを
それでもたまに 淋しくなったら 二人でお酒を
飲みましょうね飲みましょうね

青春時代

1. 卒業までの半年で答えを出すと言うけれど
二人が暮した歳月を何で計ればいいのか
青春時代が夢なんて後からほのぼの思うもの
青春時代の真ん中は道に迷っているばかり
2. 二人はもはや美しい季節を生きてしまったか
あなたは少女の時を過ぎ愛に悲しむ人になる
青春時代が夢なんて後からほのぼの思うもの
青春時代の真ん中は胸にトゲ刺すことばかり

青春時代が夢なんて後からほのぼの思うもの
青春時代の真ん中は胸にトゲ刺すことばかり

「高校三年生」

1. 赤い夕陽が 校舎をそめて ニレの木陰に 弾む声
ああ 高校三年生 ぼくら 離れ離れになろうとも
クラス仲間は いつまでも
2. 泣いた日もある 怨んだことも 思い出すだろ 懐かしく
ああ 高校三年生 ぼくら フォークダンスの手をとれば
甘く匂うよ 黒髪が
3. 残り少ない 日数を胸に 夢がはばたく 遠い空
ああ 高校三年生 ぼくら 道はそれぞれ別れても
越えて歌おう この歌を

上を向いて歩こう

上を向いて歩こう 涙がこぼれないように
思い出す春の日 一人ぼっちの夜
上を向いて歩こう にじんだ星をかぞえて
思い出す夏の日 一人ぼっちの夜

幸せは雲の上に 幸せは空の上に
上を向いて歩こう 涙がこぼれないように
泣きながら歩く 一人ぼっちの夜

(口笛)

思い出す秋の日 一人ぼっちの夜
悲しみは星のかけに 悲しみは月のかけに
上を向いて歩こう 涙がこぼれないように
泣きながら歩く 一人ぼっちの夜 一人ぼっちの夜

今日の日はさようなら

1. いつまでも絶えることなく 友達でいよう
明日の日を夢見て 希望の道を
2. 空を飛ぶ鳥のように 自由に生きる
今日の日はさようなら また会う日まで
3. <ハミングで>
4. 信じあう喜びを 大切にしよう
今日の日はさようなら また会う日まで また会う日まで

戦争を知らない子供たち

1. 戦争が終わって僕等は生まれた 戦争を知らずに僕等は育った
大人になって歩き始める 平和の歌を口ずさみながら
僕等の名前を覚えて欲しい 戦争を知らない子供たちさ
2. 若すぎるからと許されないなら 髪の毛が長いと許されないなら
今の私に残っているのは 涙をこらえて歌うことだけさ
僕等の名前を覚えて欲しい 戦争を知らない子供たちさ
3. 青空が好きで花びらが好きで いつでも笑顔の素敵なひとなら
誰でも一緒に歩いて行こうよ きれいな夕陽の輝きこみちを
僕等の名前を覚えて欲しい 戦争を知らない子供たちさ
戦争を知らない子供たちさ

無縁坂

1. 母がまだ若い頃 僕の手を引いて この坂を昇るたび いつもため息をついた
ため息つけば それで済む 後ろだけはみちやだめと
笑ってた白い手は とてもやわらかだった
運がいいとか悪いとか 人は時々口にするけど
そういう事って確かにあると あなたを見ててそう思う
忍ぶ忍ばず無縁坂 かみしめる ささやかな僕の母の人生
2. いつかしら僕よりも 母は小さくなった 知らぬ間に白い手は とても小さくなった
母はすべてを 唇に刻んで流してきたんだろう 悲しさや苦しさは
きっとあつたはずなのに 運がいいとか悪いとか 人は時々口にするけど
めぐる暦は季節の中で 漂いながら過ぎて行く
忍ぶ忍ばず無縁坂 かみしめるような ささやかな僕の母の人生

Amazing grace

1. Amazing grace, how sweet the sound,
that saved a wretch like me.
I once was lost, but now am found, was blind, but now I see.
2. 'Twas grace that taught my heart to fear,
and grace my fears relieved
how precious did that grace appear, the hour I first believed.
3. Through many dangers, toils And snares
I have already come 'Tis grace hath brought me safe thus far
And grace will lead me home

ジングルベル

1. 走れそりよ風のように 雪の中を軽くはやく
笑い声を雪にまけば 明るい光の花になるよ
ジングルベル ジングルベル鈴がなる 鈴のリズムに
光の輪が舞う
ジングルベル鈴が鳴る 森に林に響きながら
2. 走れそりよ丘の上に 雪も白く風も白く
歌声は飛んでゆくよ 輝き始めた星の空へ
ジングルベル ジングルベル鈴がなる 鈴のリズムに
光の輪が舞う
ジングルベル鈴が鳴る 森に林に響きながら

Take Me homeCountry roads

Almost heaven,West Virginia Blue ridge Mountains Shenandoah River

Life is old there, older than the trees

Younegr than the mountains grow-in' like a breeze

Country roads take me home to the place I be long

West Virginia mountain Mama Take me home Country roads

All my memories gather round her Miner's lady stranger to blue water

Dark and dusty painted on the sky

Misty taste of moonshine,teardrop in my eyes

Country roads take me home to the place I be long

West Virginia mountain Mama Take me home Country roads

I hear her voice in the morning hour she calls me

The radio reminds me of my home far away

And driving down the road I get a feeling that I should have been home

yesterday yesterday

Country roads take me home to the place I be long

West Virginia mountain Mama Take me home Country roads

Country roads take me home to the place I be long

West Virginia mountain Mama Take me home Country roads

Take me home Country roads Take me home(down)Country roads

諸人こぞりて

1. 諸人こぞりて 迎えまつれ 久しく待ちにし 主はきませり
主はきませり 主は 主はきませり
2. 悪魔のひとやを打ち砕きて とりこを放つと 主はきませり
主はきませり 主は 主はきませり
3. しぼめる心の 花を咲かせ めぐみの露(つゆ)おく 主はきませり
主はきませり 主は 主はきませり
4. 平和のきみなるみこを迎え 救いの主と寝めたたえよ
寝めたたえよ 寝め寝めたたえよ アーメン

聖夜 (きよしこの夜)

1. きよしこの夜 星はひかり 救いのみこは
み母の胸に 眠りたもう 夢やすく
2. きよしこの夜 み告げ受けし 羊飼いらは
御子のみ前に ぬかずきぬ かしこみて
3. Silent- night holy-night all is calm all is bright
Round your virgin mother and Child holy inphant so tender and mild
Sleep 'in heavenly peace Sleep 'in heavenly peace
4. きよしこの夜 星はひかり 救いのみこは
み母の胸に 眠りたもう 夢やすく アーメン

【元氣塾】 Xmas party

2017/12/16

第一部		(12:30~13:30)	
順番	歌い手	歌 唱 曲	
1	宮下 イシ子	上を向いて歩こう	12
2	草野 邦子	瀬戸の花嫁	6
3	渡辺 洋子	ここに幸あり	7
4	行方 秀夫	酒 よ	10
5	渡辺 憲二	戦争を知らない子供たち	13
6	塩田ますみ	ごめんね	3
7	渡辺 貞子	四季の歌	7
8	植木 せつ子	だんな様	2
9	佐藤 哲雄	無縁坂	13
10	早川 正二	Take Me Home Country roads	15
11	大橋 四郎	My Way	1
12	二瓶 京子	賛美歌 (Amazing Grace)	14
休 憩		(13:30~13:50)	
第二部		(13:50~15:00)	
1	花		8
2	涙そうそう		5
3	二人でお酒を		10
4	真っ赤な太陽		6
5	恋の季節		9
6	諸人こそりて		16
7	ジングルベル		14
8	聖 夜		16
9	青春時代		11
10	高校三年生		11
11	今日の日はさようなら		12
【 お 楽 し み 抽 選 】			